

網膜に直接映像描画

視覚障害者
向け端末

16年春にも製品化

QDレーザーと



量子ドットレーザーの
QDレーザー(川崎市、菅
原充社長)と東京大学ナ
ノ量子情報エレクトロニ

クス研究機構(荒川泰彦
生産技術研究所教授)は
2日、視覚障害者向けに
網膜に映像を直接描画で

エ光メのて
ウ光メのて
アイ例。をムし
ア装着。ト配置
ザア。フレ配置
レーのユニフレ
ア学ガ内いる

きるウェアラブル端末の
原型を開発したと発表し
た。大病院や教育機関
と連携して性能を向上
し、視覚補助器として2
016年3月までに商品
化する。
両者が開発したウェア
ラブル端末「レーザーアイ
ウェア」は、半導体レーザ

ープロジェクトをメガ
ネフレーム上に設置する
ことで装着者の網膜をス
クリーンとして利用す
る。これまでの液晶方式
に比べて高輝度・高色再
現・低消費電力であり、
網膜の任意の位置にパソ
コン画面などを直接描画
可能。視力にかかわらず
鮮明な画像を見ることが
できる。両眼視にも対応
する。
今後、視覚補助器とし
て使用するうえでの有用
性と安全性を確認し、仕

様やデザイン、ユーザー
インターフェースの最適
化を図る。今年9月には
量産に向けた原型を完成
し、来年3月までに商品
化の予定。医療検査機器
や作業現場への普及を想
定しており、17年には、
「真のスマートグラス」
を目指す。

化学工業日報2015年3月3日付5面